
金環日食の撮影

基本的には皆既日食の際の部分日食撮影が参考になります。ただし、皆既日食の場合は、コロナ撮影が中心になるため、600mm前後の望遠鏡を使用することが多いと思います。今回は、太陽面のみの撮影ですからフィルムサイズいっぱい、太陽を写し込むように機材を選択して下さい。例えば、1000mmの望遠鏡に2Xテレプラスをつけると、迫力ある金環日食がとらえられるでしょう。

減光方法は対物レンズの前に、コダックゼラチンフィルターD4（1万分の1に減光）を取り付けるのが一般的です。合成F値が大きい時は、D3（千分の1に減光）の使用も考えられます。ブレを防ぐため、シャッタースピードが1/1000秒近くになるように、フィルターとフィルムを選択します。

最後に、部分日食の露出時間の参考例を示しておきます。このデータを利用して、実際に使用する機材で、テスト撮影をしておくといいでしょう。露出は周縁減光の影響を避けるため、普通の太陽撮影よりやや多めにかけます。金環日食時の露出は、食分95%と同様と考えていいと思います。3段階に露出を変えて、撮っておくと安心です。

部分日食の露出時間（コダクローム64、D4フィルター使用）

食分 0%	F 16	1/500
食分60%	F 16	1/250
食分95%	F 16	1/125

（榊原幸雄）
